



先導的実践プログラム部門 演劇的手法を用いたコミュニケーションプロジェクト

プロジェクト責任者：北海道教育大学 理事 阿部 修

概要

社会や学校現場における人間関係はより複雑化し、教師自身の「コミュニケーション能力」についても、その育成の必要性は喫緊の課題となっている。

このような状況を踏まえ、北海道教育大学が平成23年度から平成25年度まで富良野GROUPと連携し、富良野塾26年間の実績と本学の人的・学問的資源を活用して、**教員養成課程の学生及び現職教員のコミュニケーション能力を育成するプログラムを開発**してきた。

本プロジェクトは、次世代の教師教育の教育内容として、4大学の研究者と共に「演劇的手法によるコミュニケーション教育」の教育実践及び授業研究を行い、当研究を踏まえた教育実践として、**教員養成課程における授業科目「コミュニケーション実践」**を行うとともに、これらの内容を応用した**現職教員研修**を実施している。

また、プロジェクト成果物として、4大学プロジェクトメンバーによる書籍の出版を行った。他大学教育学部で本書合同読書会が開催され、授業実践の内容が応用されるなど、大学教員や現職教員等における「演劇的手法によるコミュニケーション教育」の有効性について認識が広がっている。

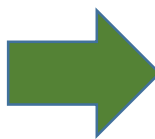
おおまかな特色について

- I 教師教育における「演劇的手法によるコミュニケーション教育」の授業研究
- II 教員養成課程における「演劇的手法によるコミュニケーション教育」に関する授業科目の実施と出前授業並びに研修会を通じた4大学共同研究
- III 現職教員を対象とした「演劇的手法によるコミュニケーション教育」に関する研修の実施

魅力ある、特色のある、今後、他教員養成系大学等へも展開できそうな取り組みについて

(課題)

- ①いじめ、不登校、学級崩壊など、学校教育において子ども・若者をとりまく「関係性」の問題
- ②教師、保護者及び地域の人々との信頼関係の構築
- ③閉鎖的な教師文化の解体と協働的な同僚性の構築
- ④アクティブ・ラーニング等対話的で能動的な深い学びへの転換



(解決への方策)

- 教員養成課程並びに現職教員研修における「演劇的手法によるコミュニケーション教育」の実施

最終成果

- ①「演劇的手法によるコミュニケーション教育」を全国の教員養成系大学・学部の授業にて実践することにより、コミュニケーションスキルの高い教員を育成【平成29年度末まで（平成30年度以降も継続して実施）】
- ②「演劇的手法によるコミュニケーション教育」を現職教員研修にて実施することで、各自のコミュニケーションを省察し、課題解決へのアプローチを支援【平成29年度末まで（平成30年度以降も継続して実施）】

＞取り組み具体例

I 教師教育における「演劇的手法によるコミュニケーション教育」の授業研究

○「教師」への視点

- ・「**関係性**」(社会や学校現場での人間関係)の専門家として、**身体**を基盤とする「**媒介**」「**越境**」「**省察**」する関係態として編みなおす。
- ・教師教育の枠組みとして、科学的な知識や定式化された技術の習得を目指す近代的な教師教育ではなく、各学生が、**〈わたし〉**の視点から主体的に学びに参加する**物語をベースにした方法論**を援用。

○「演劇的手法」という教育方法

- ・「**役者養成**」に用いられている活動を教師教育に応用して行う授業実践。
- ・想像力や創造性を駆使したさまざまなゲームやアクティビティを行い、「**実践**」を通して学んでいく「**参加型・体験型・双方向型**」のワークショップ型式の授業を実践。

○コミュニケーション教育への視点

- ・コミュニケーションを、「**能力**」としてではなく、「**関係性**」に着目した「**実践**」という視点から捉える。
- ・振り返りを重層的に実施し、理論と実践の往還による気づきを基に「**意識化**」を図るための教育実践。
- ・コミュニケーションに関する「**テーマ**」を軸に、さまざまな活動を組み合わせてデザインする教育実践。

II 教員養成課程における「演劇的手法によるコミュニケーション教育」に関する授業科目の実施と出前授業並びに研修会を通じた4大学共同研究

○教員養成大学における教育実践

- ・北海道教育大学における授業科目「コミュニケーション実践」の実施
- ・大阪教育大学・東京学芸大学での出前授業

○プロジェクト成果物の出版

- ・4大学プロジェクトメンバーによる書籍『〈教師〉になる劇場: 演劇的手法による学びとコミュニケーションのデザイン』(フィルムアート社、2017年)を通じた研究成果の発信。

○研究発表

- ・北海道教育大学「演劇的手法による教師教育プログラム開発」事業によるシンポジウムの開催
- ・「教師教育と演劇的手法」研究会の実施
- ・日本教育大学協会研究集会を初めとする研究会での情報発信



教師はどのように準備する期間もある必要し、新しい経験も込みでいるのか？
このようにして、各学生から学びたい、学びたいコミュニケーション(授業)を学生教育
の中心に置いていくのか？ そして、教師の教育のあり方にも変化があるのか？

学校教育における「**関係性**」を
豊かなものに編み直していくための、
〈演劇×コミュニケーション×教育〉
という新しい方法論とその可能性。

III 現職教員を対象とした「演劇的手法によるコミュニケーション教育」に関する研修の実施

○教員免許状更新講習「コミュニケーション(選択領域)」の実施

○教育委員会等における研修の実施

<利用学生の感想>

- ・体験したワークショップから自身の問題点に取り組む糸口が見つかった。
- ・教室の空間の使い方や雰囲気作りに大きなヒントを得た。

<教育委員会等主催者の感想>

- ・演劇的手法は、自由な雰囲気の中で、互いを尊重し合いながらコミュニケーションを取るための有効な手段だと感じた。
- ・ワークショップを通じて、感じたことを表現し振り返りで意見交換を行うことにより、コミュニケーション教育の有効性を認識した。

